



東京からJR東海道線で約1時間平塚に到着する。今回お邪魔するトノックスは、駅から更にバスで15分ほど、さまざまな会社の工場がある『馬入工業団地』の一角にある。

## 製品

御社で製作している主力製品についてお聞かせ下さい

殿内社長 車両の生産、特装車の製作はもちろん、警察、消防などの官公庁向け車両、福祉車両といった特装車などの車両開発から生産まで行っています。

その他にも車両の特殊塗装、樹脂塗装、輸入車整備など車両に関するあらゆる事を手がけています。

古い車を再生できるとうかがったのですが、そういったこともやっているのでしょうか？

横浜工場では古い車を改装し、再生させています。「レストア」といいますが、企業だけでなく個人のお客様からも注文いただいております。

30年以上経った車を再生させるというのは、車製作に対するあらゆる技術、技能、知識、経験が必要です。幸い、当社には初代シルビアやフェアレディ等を製作していた経緯があり、当時「職人」と呼ばれた従業員が現役で働いているなど、「レストア」を行う上で、他社に負けないものを持っています。これまで納車させていただいたお客様からも大変好評を得ています。

社長のモットー、今後の抱負などについてお聞かせ下さい

一人ひとりの従業員が一つの仕事を専従するのではなく、オールマイティに仕事をこなせるようになってほしいとも思っています。正確さとスピード感も必要です。

従業員全員がお客様の要望に「出来ない」とは言わない。そういった企業体制を築いていきたいですね。

# Net Work

会員会社紹介 Vol.44

「従業員の多能工化で無限の繁栄を目指す」

## TONOX 株式会社トノックス

取材 / (社)日本自動車車体工業会 事務局次長 橋本 茂



取締役社長  
殿内 荘太郎

**DATA**  
 本社・工場 神奈川県平塚市長瀬2番6号  
 TEL 0463-23-2525(代)  
 FAX 0463-23-5569  
 資本金 3億3,000万円  
 従業員 350名  
 事業所規模 敷地 29,090㎡ 工場 17,350㎡  
 車工会加盟 昭和48年(特種部会)

## 各種特装車



パトカー、救急車、建設機械用キャブなどお客様のニーズに合わせて製作している

## けん引車

さまざまなけん引車を製作している。その使われ方は国内に留まらず、海外でもトノックス製のけん引車が数多く活躍している(写真は米軍基地で活躍しているけん引車)



## 「レストア」～古い車を再生



古くなって使えなくなった車をもとのとおりに再生し、走れるようにする。これには深い知識と多くの経験、技術が必要。30年以上前の車を再生するもので、横浜工場で作成している

## 特徴・沿革

昭和23年に横浜で創業。その2年後に「殿内工業」を設立し、自動車車体の製作へと取り組む。昭和34年に横浜工場、昭和42年に平塚工場を新設し、車体製作の種類も次々に増えていった。

昭和48年に平塚市に本社を移転すると、特装車の生産に力を注ぐようになる。バン型保冷車、建設機械用キャビンなど、現在の主要生産へとつながる特装車の製作は、この頃から始まった。これらの車は、お客様のニーズに合わせて設計開発も行い、他社とはひと味もふた味も違う車づくりを目指している。

「自動車の相談はなんでもかかえる」との言葉どおり、お客様のニーズに応えるためのツールは多く持っている。平成4年には関東運輸局長指定「指定自動車整備工場」の免許も取得し、車検整備業も開始している。さらに車両塗装の面では、ライン用、部品用合わせて6基の塗装ブースを備えている。その中にはフッ素塗装、ダイヤモンド塗装などの特殊塗装、板金塗装なども含まれ、特装車同様、お客様のニーズが高い。最近では日本航空向けの荷物を運ぶけん引車を製作、全世界の空港で活躍している。また大型トラックの運転席ほどのあるフォークリフトの操縦席も、随所に工夫が凝らされた自信作だ。

株式会社トノックスは平成3年に社名を「殿内工業」から「トノックス」に改称した。英語で表記すると「TONOX」と書く。この「X」には「無限」という意味も込められている。無限の繁栄を願い、つけられた社名である。平成12年には創立50周年を迎えた。

今後はこれまでの経験を生かし、民間向けの大形車両、例えばレッカー車、医療車などを今以上に手がけていきたいという。

「TONOX」の「X」が意味するとおり、車造りへの挑戦は、今後更に広がりを見せるようだ。



## 人

御社の従業員の特徴は、塗装、板金など何でもできる「多能工化」を進めています。実際の仕事を通して、学んでもらうという定期ローテーションを行うことでさまざまな技能、技術を習得してもらっています。

平塚工場と横浜工場の従業員同士でのコミュニケーションはどのようにされていますか？

応援、異動など随時行うようにして、お互いの工場を行き来するようにしています。

高い技術、技能をお持ちですが、次世代への継承等はどのようにされていますか？

現場の高齢化は当社でも大きな問題です。少人数ですが、毎年新卒採用を行っています。

これは現場の高齢化に歯止めをかけること、技術を次世代に繋げていくことを目的にしています。

さまざまな技能、技術によって造られた特装車



塗装ブースの中では、バンパーの塗装が行われていた

